

## 洋書輸入協会会報

VOL. 8

NO. 1

(通巻81号) 昭和49年1月

## ご 挨拶

理 事 長 飯 泉 新 吾

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

さて、このたび丸善株式会社 司 忠会長の相談役就任に伴ないまして、私が洋書輸入協会の理事長の任を引継ぐことになりました。

終戦後間もなく占領軍管理のもとに貿易が再開された際、海外出版物輸入同業会が組織されましたのが昭和22年10月のことでありますが、前理事長は、この時より今日まで26年の長期に亘り業界の発展に貢献されました。業界としては、通貨問題をはじめ、経済上の逼迫した諸問題を孕んでおりますこの時期に理事長の任に当ることになり、その責任の重大さを痛感している次第です。

わが国の科学技術、学術振興など文化の発展の重要な情報源である外国出版物は、今後も益々その必要性が認識されることは申すまでもありませんが、昨今のエネルギー資源不足にはじまる物価問題等が1974年のわれわれ業者に及ぼす影響は楽観を許さないものがあり、各位の企業経営も多く難問を抱えた年といえましょう。私もここに新年を迎えるに当り、決意を新たにして協会発展のために最善の努力をいたす所存でありますので、会員各位のご協力をお願いいたしましてご挨拶といたします。

昭和49年元旦



## ご 挨拶

司 忠

このたび理事長を退任するに当り会員の皆さまに一言ご挨拶申し上げます。

顧みますと、終戦後民間貿易が再開され、昭和22年10月海外出版物輸入同業会の再発足と同時に、私は理

|              |               |   |
|--------------|---------------|---|
| ご挨拶          | 理事長 飯泉新吾      | 1 |
| ご挨拶          | 司 忠           | 1 |
| ご挨拶          | 洋販 取締役社長 渡辺正広 | 2 |
| 理事会報告        |               | 3 |
| ペンギン・ブックス訪問記 |               | 3 |

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 実務シリーズ No. 24               | 5 |
| Book Review                 | 6 |
| 外国出版社の紹介                    |   |
| Wm. Collins Sons & Co. Ltd. | 7 |
| 海外ニュース                      | 9 |

|             |    |
|-------------|----|
| ニュース        | 9  |
| 通関統計        | 9  |
| 総代理店御案内     | 10 |
| 会員の横顔 三品書店  | 11 |
| 広告 内外交易株式会社 | 12 |

- The Female Reproductive System 1971 ¥8,000  
 The Endocrines 1969 ¥8,000  
 Lower Urinary Tract  
 Gastrointestinal Tract  
 Brain & Eye  
 Hemopoietic & Lymphatic System  
 Accessory Digestive Organs  
 Vertebral Column  
 Advances in Nephrology by J. Hamburger  
     Vol. 1 ¥5,920  
     Vol. 2 ¥6,880  
     Vol. 3 in prep.  
 Normal & Abnormal Development of the  
     Kidney by E. L. Potter 1972 ¥8,000  
 Churchill Livingstone  
 Disorders of Voluntary Muscle by J. N. Walton  
     1973 2nd ed. ca. ¥8,800  
 Springer-Verlag  
 Atlas of Gross Neurosurgical Pathology  
     by K. J. Zülch 1973 ca. ¥17,920
- (株)アロー・インターナショナル・カンパニー  
 〒105 東京都港区芝公園2-4-720 ☎432-4567
- Datapro Research Corporation (米) All titles  
 「Datapro 70」 初年度購読料 ¥189,000  
     本体3巻航空便追補サービス12回  
     継続購読料 ¥130,000  
 「Datapro Reports on Minicomputers」  
     本体1巻追補4回月刊 Mini News 航空便扱  
     初年度購読料 ¥108,000  
 「Datapro 70」よりセレクトされた  
     特集リポート (別刷)
- Data Processing Digest, Inc. (米) All titles  
 「Data Processing Digest」  
     月刊一年未索引 購読料 ¥21,840  
     航空便扱 ¥26,940  
     その他 Paperback ed.  
 「EDP マネジメントシリーズ」  
 Anaheim Publishing Co. (米) All titles

## 会員の横顔

三品書店

### 三品要次

新しい年が必ずしも  
 安易な年ではないこと  
 が感じられる時、私達  
 は長い間この道にたず  
 さわって来た先輩の言  
 葉に耳を傾け、それを  
 我々の智慧のなかに生  
 かさねばならないので  
 はなかろうか。



三品さんは明治33年のお生まれというから73歳、数人の長老の中のお一人である。震災前に教文館に入社。銀座はまだガス灯の時代で、夕方になると長い竹竿を持った人が点灯して廻っていたのが印象的だったという。その頃から50年余、キリスト教書と共に生きてこられた三品さんが肌で感じることは、戦前の方が商売が厳しかったということである。戦後は大学等の数も増え、購買力もあがって、戦前より大分楽になったように思う。という大先輩の言葉を、戦後に育った我々は一度噛みしめてみなければいけないと思う。

昭和27年、教文館を退かれて後、独力で三品書店を経営。「大きくなろうとするな。外国に借金を作るな。」を信条として来られたという。協会の会員の規模は大小さまざまで、経営の研究などにしても、大企業にはコンピューターも必要だろうが、小企業は小企業なりの経営の智慧がある筈、それをお互いに出しあって、少しでも人手を省き、能率をあげるようにしてゆけば、この難しい時代も何とか乗り切れるのではないか、という三品さんの言葉は、もっと難しい時代を体験してこられた方のそれであるだけに、人をしてうなづかせるものがある。

正月の朝風呂に、旦那衆が顔を揃えた頃の良き時代の銀座の話が出る。何か事変があると銀座には本屋が増え、世の中が安定するとそれが減っていったというのも面白い。これからの時代がそのどちらであるか、銀座通りを歩く方は注意されたら良いだろう。

話は前後するが、お伺いする前に電話で道順を伺った。「駅前から何番のバスに乗り、何々停留所からバス進行方向に100歩、右に曲って60歩。」という御指示の通り、歩数を数えながら歩いて、ひょいと見上げると「三品」という表札があった。四分の三世紀を生きた方の智慧のムダのなさに、つくづく敬服した次第である。

## 理 事 会 報 告

12月10日（月）

(一) 文化厚生委員会報告。

1月8日（火）プレス・クラブ各社一名協会負担他は一名につき¥3,000とする。

(二) 理事長交代について

このたび司忠氏が丸善株式会社会長の任をひかれ相談役に就任されたのに伴い、1月1日に社長飯泉新吾氏が理事長に就任されることになった。司氏の永年にわたる功績に対し、理事会としては、同氏に名誉会長に推戴し、感謝状と記念品とを贈ることとした。

(三) Media Directions の件。

同社と傘下の出版社との間で若干のトラブルがあるらしいので調査することを渉外委員会に委託。

(四) 港湾ストについての報告——通関委員会。

11月末から労働条件の問題で、コンテナ・ヤードでストライキがつづいていたが、12月9日解決。この間米船は米船専用埠頭を使用したので問題はなかったが、ヨーロッパからの貨物には約10日間の遅延を生じた。

(五) 11月分収支計算・予算対比表についての報告検討。

(六) 三洋出版鈴木氏から大阪の会員との意見交換について報告あり。

(七) 諸情勢についての報告討論。

(八) その他。

## ペンギン・ブックス訪問記

——1973年国際書籍展視察団海外旅行 第2日——

<前 夜 狂 騒 曲>

ペンギン側へ通知してあった我々のロンドン宿泊ホテルが実際と違っている事に気づいたのは、到着した日（10月3日）の夜になってからでした。出発前のミーティングでは、我々の宿泊ホテルは、ロンドンはインペリアルホテルと決っていました。所が最終段階で、それは Mount Royal ホテルに変更されていました。ペンギンは翌日午前の訪問予定だから、我々のためにロンドン滞在を延ばして待っている British Books の酒井氏に申訳ない、急いでホテルに変更の連絡をしなければと、相良、大野の両氏の努力で電話をかけるのですが、これがうまく通じない。とうとうその日は断念し、翌朝再度電話し。何度目かにやっとペンギンにつなぐ事が出来ました。その間の両氏の努力は聞くも涙。何しろ用意して行ったペンギンの電話番号は間違っていて、前夜は一生けんめいその番号をダイヤルしていたとの事、又翌日は正しい番号がわかったものの、ペンギンはロンドン郊外だからと、これまたけんめいに長距離申込をホテルのオペレーターにたのんでいたのです。（ペンギンは場所は郊外だが電話は市内即時）



ペンギンの倉庫

一方ペンギンの方では、酒井さんと日本担当のマネージャー Allen さんとが、前夜同時刻にこれ又聞くも涙の物語を展開していました。

まず前もって連絡の通り Imperial Hotel に行った所、「そんな日本人団体客は泊っておりません」というにべもないホテル側の答え。「そんな筈はない」と食いさがる酒井さんと Allen さん。Mr. Sagara、Mr. Ohno、Mr. ……、と日本人の名を言って、泊り客の名簿をさがさせたが、答は No。

その時ふと酒井さんが Imperial に変更になる前のホテル Mandevill を思い出し、そつちを聞いてみる事にしました。(何しろ今回の旅行は、ロンドンのホテルが3回変更になった)「そのお客様は到着が変更になり今夜10時に着きます」と言う Mandevill の答え。やれやれやとわかったとご両氏、時間もある事とて、酒井さんの宿舍に帰り、一休み。11時頃になり、頃はよしとばかり Mandevill へ電話。「そんなお客は居りません」とホテル。「そんなバカな、Mr. 一、Mr. 一、Mr. 一、泊り客名簿をさがせ」とご両氏。だが結果は Imperial と同じ

途方にくれ、とにかく、翌朝会社のオヘレーターに、ロンドン中のホテルへ電話させる事をきめて、その晩はヤケ酒を飲んで二人とも寝てしまったという。

翌朝、酒井さんがペンギンへ入社するやいなや「早く来い、電話で日本人が、Mr. Sakai、Mr. Sakai と言っている」あわてて電話口へ。「もしもし酒井です」「もしもし大野です」。かくしてこの前奏曲も終曲のコードとなりました。

#### ＜訪 問＞

うちそろった総勢7名(紀伊國屋一相良・長谷川、極東一伊藤、国際一志保沢、丸善一大野、三省堂一亀井・野村)、地下鉄の終点まで、車で迎えに来てもらい、めでたくペンギンに着く事が出来ました。ペンギンはヒースロー空港の近く Middlesex の Harmondsworth にあります。この一帯は風致地区とかで、建物の高さが規制されて、ペンギンの社屋も低く平らに広くたっぷり作られています。飛行場が近いので、室内は当然防音されています。本館の裏手へ、案内されてずっと入って行くと、竹など植えてある日本庭園を真似た中庭があって、その向い側が食堂になっていました。その食堂で、お茶など接待されて一休みし、いよいよ社内の見学と相成りました。

大きな出版社、とりわけ Paperbacks の出版社は、Warehousing と Distributing の良し悪しが営業に重大な影響を持つ事はよく言われる事です。我々が見学したこのペンギンの Warehouse や Distribution Center も当然この見地から作られたものです。コンピューター(Honeywell H12型)を中心として、ペンギン独自で考案し作らせたと言う Fork-Lift (倉庫内で100単位で商品を動かす場合に用いる)やインボイスを記憶したセンターの指示通り

動いて集荷する Cartrac System 等は、1966年から1968年までかかって、ねりにねって作っただけあって、さすがに見るべきものがあります。見学者一同、メモをとったり、写真をとったり、感心したり、中々理解出来ない所もありましたが、大いに意義を感じて見学を終りました。(ペンギンの作業機構については、資料もあることとて、別稿にて紹介の機会をもってみたい)

ジュータンを敷きつめた広いフロアのオフィスで、日本と関りのある主だった人々に会いました。Hogben氏(Overseas Sales & Marketing Director)、Blake氏(Deputy Overseas Sales Marketing Manager)、この両氏は日本へも来た事のある人それと Matt氏(General Sales Marketing Director)です。又ここで、単身仕事のためロンドン入りした洋販の栗原氏と思いがけず合流しました。

さて見学が終って昼食と言う事になり、我々日本側は栗原氏が加って8名、ペンギン側が酒井氏を入れて5名、計13名三台の車に分乗して案内された所が Surrey 州 Egham 町にある Great Forster というレストラン。イギリスは古いものを残すのが上手と言われますが、そのサンフルの様な建物。聞く所によると地方の豪族の屋敷をそっくり残したもので1550年代のものという。紅葉のきれいな広大な前庭をもち、内部は昔のままのアンティークムードで、とてもレストランとはにわかに信じがたいたづまいのものです。上等の料理と上等のワインに一同すつかりごきげんになり、火事見舞の様な顔になって二時間に及ぶヨーロッパ式昼食を完了しました。帰りはペンギン諸氏の好意あふれる計いで Windsor 城の方に大きく回してイギリス風物を万喫しつつ4時頃ペンギンの本社に帰り、重ね重ねのご好意を謝し別れをつけました。

(三省堂書店・野村知成)

〔追記〕Penguin社のAllen氏は11月から12月にかけて一カ月日本を訪問、我々はPenguin社訪問時の同氏の御好意にこたえるべく、丸善大野氏、三省堂野村氏、国際書房志保沢氏、極東書店伊藤氏、紀伊國屋の相良の五人でAllen氏と酒井氏を日本閣へ合同招待し、大いに歓を尽くしました。

(相良記)

# 欧文「日本関係文献目録」 その4

八 木 佐 吉

- 6: Japan Institute, Berlin. Bibliographischer Alt-Japan Katalog, 1542-1853; Bearbeitet u. hrsg. vom Japan Institut in Berlin und vom Deutsches Forschungsinstitut in Kyoto. 1940, Kyoto. xxxviii, 415 p.
- 7: Streit, R. & J. Dindinger. – Bibliotheca Missionum. (Veröffentlichungen des Internationalen Instituts für Missionswissenschaftliche Forschung). IV. Bd. – X. Bd. 1928-1938. Aachen, (Verlag: Franziskus Xaverius Missionverein Zentrale.)
- 8: Satow, E. – Jesuit Mission Press in Japan, 1591-1610. 1888, London.
- 9: Bibliography of Shinto in Western Languages from the Oldest Times till 1952. Compiled by Genchi Kato, Karl Reitz & Wm. Schiffer. 1953. Tokyo, Mei-ji Jingu Shamusho. xi, 58, 7 p.

6: 「欧文古日本文献目録」。これはベルリン日本学会（日本研究所）トラウツ教授の監修のもとにヘルタ・フォン・シュルツ女史の編輯にかかる。当時京都に在ったドイツ文化研究所によって印行された頗る特殊の書誌である。

ベルリンの日本学会はトラウツ氏らの主唱によって大正15年（1926）に創立され、トラウツ教授は主事に推された。学会の事業の一つとして本書目の編纂が企図され、ドイツの全図書館とオーストリアの数館に対して古日本に関する所蔵文献の調査が依頼された。収録は1542年から1853年までに出版された欧文の書物と限られている。1542年はホルトガル人が初めて日本に来たといわれている年で、1853年はいうまでもなくアメリカのペルリ提督が浦賀に来き年で、この間を“アルトヤパン”（旧日本）と称しているわけである。

そもそもこの目録の編纂事業は1928年に発足した。承合の各地図書館の協力が得られたところで1929年暫定版が仮印刷にふせられた。このテンタティブの仮目録が、更にドイツ内100館と数館の外国図書館、20名の専門学者に照合の為配布され補正増補せられた。こうした結果ウエンクステルンやコル

ディエの「日本書誌」にないものも数多く収録され、また、標題に「日本」とないもので、文中ある程度の日本に関連する記事のある書物も収められるに至った。更に相当の時日を置いて、印刷は当時京都に在ったドイツ文化研究所の引受けるところとなって1940年に公刊されたわけである。

トラウツ氏は序文で“記載の完璧と精確は本書の希求し、庶幾して止まざるところ”と自ら記し、このことは本目録を使用して実際に徴してほしいとの意味も書かれている。収録は欧米諸国と日本、特にドイツと日本の交渉を内容とする図書1624エントリーである。筆者はこの中にロシアの一部書誌にある以外どの書目にも見出し得ない珍稀書が載っているのを発見して驚喜したことがある。その本は18世紀末シベリアのイルクーツで日本語の教師をしていた、伊勢の漂流民がロシアに帰化してニコライ・コロティギンと名乗っていた者の著述で「日本及び日本貿易……」O Iaponii i Iaponskoi Torgovlě…である。コロティギンは日本名を新蔵とって、大黒屋光太夫の配下の船乗りである。光太夫達のことについては井上靖さんの「おろしや国酔夢譚」や亀井高孝先生の諸著書によって、近ごろは衆知のこととなったので茲に記することもないと思う。この稀書はペテルブルグ1817年版で戦前たった一部日本に将来されていたが戦後は所在不明である。わずかに九大の村山七郎教授のお手許にロシア国立図書館（？）蔵本のフィルムがあると聞くのみである。ロシアを除いて世界中どこにあるかと思っていたこの珍籍が本目録の第757に載っていてイエナ大学図書館蔵とある。いささか話が長くなったが思い出をなつかしむ余りとお許し願いたい。

なおトラウツ教授はいうまでもなくドイツ日本学の第一人者であり、この目録編輯当時すでにシーボルトの大著「日本」の複製事業にとり組んでおられた方である。「日本」のファクシミリ版についてはすでにこの会報に記したことがあるので今はふれない。ただ博士が日本精神と日本文化の研究に生涯をかけ、ドイツ「日本学会」の創立者の一人で、主事となり、のち京都の「ドイツ文化研究所」の主事をも勤めたことは上記した通りである。（つづく）

# 「私の辞書」について

本 庄 桂 輔

丸善の洋書部には各国の辞書だけを扱っているコーナーがある。ここにはいつも何人かの客が足をとめて思い思いの辞書を取り上げ熱心に繙いている。言うまでもなく辞書は学問の母胎であり文化の宝である。今日世界には3、4千の言葉があるようだが、そのうち辞書をもっている国がどのくらいあるか知らないが、それにしてもこの国にはどんな辞書があるかということになると、英仏独その他の大国の辞書はさておき少数民族の辞書に至っては殆ど等閑に附されてきた。しかし今日の世界の大勢はもはや少数民族の言葉も決して忽せにはできない。言葉を知らなければ世界の国々と伍して行くことは不可能と言ってもよく、その点、欧米には一人で数か国を自由に操る人が実に多い。日本でも2、3か国を話す人は随分ふえてきたし従って辞書にたいする関心の深まったことは冒頭に述べたとおりである。そういう人たちに辞書のよき案内書があったらと思ひ立ったのがこの「私の辞書」の企画である。とくに丸善のような洋書の老舗がそういうサービスをするにうってつけではないか。

「私の辞書」を「学鐙」誌上に連載しはじめたのは昭和40年2月号からだが、最初はまず読者の関心をこの欄に惹くために洋書と縁の深いいわゆる名士たちがつねにどんな辞書を座右に備えているかに的を絞った。しかし内容にもっと市広い意味をもたせたいつもりであったのは冒頭に語ったとおりである。それにしても一般の関心がどれほど少数民族の辞書に及んでいるか、またそういう辞書にだれが精通しているかは簡単にわかることではない。

はじめは小手調べに英独仏以外の百科全書を一回掲載してみた。これがわりに評判よかったので勇氣百倍、さて今度は各国語の辞書を紹介して頂けるような人を探すことだった。早い話が外語大学の語学の課目だが、これにも限定があり多くの識者に訊きながら暗中模索を続けつつ、それでも毎号2、3篇づつ今年6月号で1日の欠番もなく百回連載できた。これは一重に数多い語学者の御好意によることで、その点、編集者として深く感謝したい。ある月などなかなか執筆者が見付からず氣を揉んだことがあったのも事実である。

たまたま今年は「学鐙」創刊いらい70周年に当り、何か後に残るような記念をしたいと思ひ、多少の冒険はあったが丸善出版部でこれを一冊にまとめて刊行する機運に恵まれた。しかし百回分をそのまま上梓することは経済的にも不可能である。と言ってどれを選ぶかはそれらの何れもが省くに惜しいものばかりである。執筆のかたはそれぞれの分野の学者であることを思っても、語学者でもない「学鐙」の編集者が決めるのは失礼でもあるし、いつそのの明朗さを期して、この連載中いろいろ智慧をお借りしたお一人である小林英夫先生に約40篇を選んで頂き多少編集者の希望を入れて47篇の本書をつくりあげた。

内容についてはまだ入れるべきもの、惜しいものもあるが、とにかく一応視野を世界各国語の辞書に広め、その案内書としてまたあまり知られていない国のそれには入門書もあげ、とにかくこういう書物が無味乾燥に陥るのを避けて執筆をお願いしたときから読物風という編集者の計画も実現できたのである。

もちろん、この書物が一種の試金石となって、今後さらに適切な類書が現われ、わが国の語学の発展に大きな貢献ができれば編集としてそれに勝る喜びはないのである。

本書に収載されている言語の種類、あるいは辞書の分類は47編からなる目次をご覧になるとお判りになるのでご紹介しておきます。

私と辞典——中国語の読み方……………吉川幸次郎  
 楽しみ辞典……………河盛 好藏  
 辞書の背後を覗く——ファウラーの  
 生き方……………上野 景福

語源学のたのしみ……………小林 英夫  
 正しい英語を教える辞典……………福原麟太郎  
 アメリカ文学の辞書……………西川 正身  
 ドイツ語の辞書について……………橋本 郁雄

|                        |       |                             |       |
|------------------------|-------|-----------------------------|-------|
| オランダ語の辞書その他……………       | 渡沢 元則 | ヒンディー語の辞書……………              | 土井 久弥 |
| アイスランド語の辞書……………        | 森田 貞雄 | ベンガル語の入門書と辞典……………           | 渡辺 照宏 |
| ノルウェー語への招待             |       | ウルドゥー語学習の手引……………            | 鈴木 斌  |
| ——入門書と辞書……………          | 半田 一郎 | フィンランド語入門……………              | 小泉 保  |
| スウェーデン語学書案内……………       | 前島儀一郎 | ハンガリー語の辞書……………              | 徳永 康元 |
| 私の辞書——デンマーク語学書案内……………  | 前島儀一郎 | 現代トルコ語の辞書……………              | 柴田 武  |
| ケルト語の辞書……………           | 榮 宏   | イスラエル・ヘブライ語の辞書……………         | 長谷川 真 |
| ゲール語の辞書……………           | 中村徳三郎 | アラビア語への招待                   |       |
| ポルトガル語辞典……………          | 池上 岑夫 | ——入門書と辞書案内……………             | 川崎 寅雄 |
| スペイン語の辞書……………          | 花村 哲夫 | エチオピア語入門……………               | 石垣 幸雄 |
| フランス語辞書四方山話……………       | 三宅 徳嘉 | 東アフリカ諸語の辞書……………             | 西江 雅之 |
| ラルゥース・フランス語大辞典につ       |       | タイ語の辞書と入門書……………             | 石井 米雄 |
| いて……………                | 渡辺 一夫 | ベトナム語の辞書と参考書……………           | 竹内与之助 |
| イタリア語の辞書……………          | 窪田 富男 | カンボジア語入門……………               | 坂本 恭章 |
| ルーマニア語への招待             |       | インドネシア語の辞書……………             | 永積 昭  |
| ——入門書と辞書案内……………        | 田中 春美 | 中国語の辞典……………                 | 長瀬 誠  |
| ギリシア語・ラテン語の辞典……………     | 高津 春繁 | 沖縄の辞書……………                  | 外間 守善 |
| 聖書ギリシア語への道……………        | 前田 護郎 | 朝鮮語辞典……………                  | 青山 秀夫 |
| 最近のロシア語辞書……………         | 佐藤 純  | アイヌ語の入門書と辞書……………            | 田村すゞ子 |
| チェコ語の辞書……………           | 千野 栄  | バスク語のすべて……………               | 堀田 郷弘 |
| ホーランド語の入門書・文法書・辞書…………… | 木村彰   | マヤ語の辞書・文法書……………             | 植田 覚  |
| バルト語の辞書と学習書……………       | 村田 郁夫 | エスペラントの辞書……………              | 小林 英夫 |
| 「私の辞書」                 |       | 小林英夫編 B 6 判、376頁 1,800円 丸善刊 |       |

## 外国出版社の紹介 No. 24

### Wm. Collins Sons & Co. Ltd.

コリンズといえば毎年定期的に2回、日本をおとづれるセールス・マン、スティブンス氏 (Stevens) を憶い出される方も多いのではないかと想像する。それ位スティブンス氏と我々同業者との結びつきも決して浅くはない筈だ。聞くところによると、彼は長年の世界のお得意めぐりの労をいやして、グラスゴーの本社に在るとの事である。あの物やわらかな態度で、わかり易い英語で語りかけてきた彼の印象が今でも強く残っている。

コリンズ社の出版物の内容からすると、取引きのある輸入業者はある程度、限られてくるのではないと思われる。というのは、出されているものが、我々一般の業者が手がける、いわゆるアカデミックな傾向よりも、むしろ一般的な大衆を対象にした出版物が多いので、そのようなものをこなせる業者に限られてくるということである。その内容については、以下のご説明を読んでもいただければ、おわかりになると思う。

最近入手した同社の沿革史なるものによると1819年創業ということである。当時29才の教師であった初代ウィリアム・コリンズ氏 (William Collins) が、印刷屋としてグラスゴーで宗教および教育関係の出版をはじめたことになっているから、今から150年あまり以前のことになる。最初に出された記念すべき処女出版物は、トーマス・チャーマーズの「大都市におけるクリスチャンと市民経済」 Chalmers, Thomas: The Christian and Civic Economy of Large Towns. であったという。続いて1842年、創業後23年たって、聖書出版のライセンスを受けるとあるから、当時としては聖書を出版するという事

は、大変やかましく相当な信用が必要だったのであろう。

1853年創業34年にして初代コリンズ氏が没する。その頃は、事業（印刷・文具・出版）は順調で、グラスゴーとロンドンに事業所を設け、海外との取引もぼつぼつはじめていたらしい。初代のあとを受けて1881年には彼の息子コリンズ2世が、あとを引きついでいるが、そのあとをついだコリンズ3世は封筒作りの機械を発明している。

現世紀になって陸軍大佐でもある W.A. コリンズ氏が1906年に会長（Chairman）となり以来40年にわたって会社を治めた。1945年に彼の息子 W.A.R. コリンズ氏が引きつぎ現在に至っているということである。伝統的にコリンズ一族は、親・子・兄弟、夫婦共、互に助け合いコリンズ・コンツェルン（House of Collins）を築き上げている。最近の出版の内容は、聖書、教育、児童、レファレンス、一般、ペーパーバック、ダイアリー等であるが、ペーパーバックのうちフォンタナ（Fontana）は娯楽ものと固いもの、アルマダー（Armada）は児童向けで有名である。

現在手もとにある同社の沿革史は創業150年を記念して1969年に作られたもので、1969年現在の数字しかわからないが、それによると同年には3,500万冊の書籍、800万冊のダイアリー、900万点におよぶ文房具を年間に生産する。これらの印刷はグラスゴーの近くのエジソンブリッグス（Edison Briggs）でなされるという。そしてストックはこれも有名なモンゴメリー元師（Field Marshall Viscount Montgomery）が1962年に開設した近代的な倉庫におさめられている。この倉庫は1,600万冊の収容能力があり20万ポンドのコンピューターを備えている。

同社は機械化についても関心をはらい、1950年代に Timson Rotary 高速印刷器を開発しているが、現在、年間300万冊にもものぼる聖書、新約聖書を印刷するのに、機械の開発なくしては不可能である。聖書につきものの金ばくによるふちどりも機械化されているが、高級なものは、矢張り昔ながらの熟練された、手仕事で処理されているようである。

同社は従業員の福利厚生のためにも、並々ならぬ努力をはらい、1887年にコリンズ2世は福祉センター（Welfare Institute）を設けて、毎日、従業員に食事を提供し、又労働時間外のレクリエーションをも提供している。それは企業における福祉施設のはしりでもあり、現在もその施設は十分に役目を果たしているとのことである。3,500人にもものぼる従業員のため、何時でも応じられる医師（Full-time Doctor）や種々の医療施設を備えている。

そんなわけでコリンズ社は世界的な企業に成長し、英国でもかなり国際的に名の知られた、アーサー・ブライアント（Sir Arthur Bryant）ハロルド・ニコルソン（Sir Harold Nicolson）ウィリアム・バークレー教授（William Barclay）やアガザ・クリスティ（Agatha Christi）、外国作家では我が国でも有名なパステルナーク（Boris Pasternak）ソルゼニツィン（Alexander Solzhenitsyn）ティヤード・シャルダン（Teilhard de Chardin）等の著作も長年にわたって出版し続けている。

同社で出版される聖書のうち100万冊以上がアメリカに輸出されているということは、機械化によるコスト・ダウンもあるだろうが、その技術水準と相まって良心的なきめ細かさが、同じ英語国民からも信用されている証拠でもあろう。

同社はアメリカ、カナダ、西インド諸島、アフリカ、インド、ホンコン、オーストラリア、ニュージーランド等に多くのブランチを持ち、総売上げの40%にわたって輸出による売上実績をあげている。戦後は、もっぱら拡大政策をとり、英国でも最も大きい、しかも進歩した内容を持った出版企業に成長している。

現在冒頭にのべたスティブンス氏のあとをついで、オーストラリアからフィリップ氏（A. L. Philip）が、やはり年2回訪れてくる。彼も小柄だが、がっしりした体と、愛すべき人柄を持ち多くの業者から受入れられているようである。最近、神保町にある、ブリティッシュ・カウンシルに同社の新刊も展示されている。

毎年フィリップ氏がやってくる度に、人情が素朴でこまやかな遠い国、スコットランドと、スティブンス氏を思い出す。（教文館 渡辺幸典記）



## 海外 ニュース

### 「ベルテルスマンがヴェスト ドイッチャーを買収」

西ドイツのオブラーデンの出版社グループ Mid-delhaure に属していた Westdeutscher Verlag GmbH. は、このほどギュータースローの Bertersmann に買収され、1974年1月1日より、ベルテルスマン・グループの主軸の一つであるデュッセルドルフの Bertersmann Universitätsverlag に、その全出版プログラム（社会科学、経済、政治等の分野の書籍および雑誌）とともに吸収合併されることになった。

Bertersmann グループは、すでに有名な Axel Springer を追い抜き、出版界の一大帝国を築きつつあるが、ここに社会科学では有数の出版社を傘下に収めたわけで、その躍進には目をみはらせるものがある。

（Börsenblatt 西独版、1973年11月30日号より）

### 「英国の新出版社」

Collins 社は、3月に C.C.M. 社を退職した Mr. Geoffrey Chapman から宗教書の分野の権利を買い取って、新しい出版社 Collins Liturgical Books Ltd. を設立した。この新社は従来の Collins 社の聖書や一般宗教書を統合し、広い範囲の祈禱書などを国際市場に出すことになっている。新社には、Mrs. Sue Chapman が編集長に、Mr. Michael Ayres がマネージャーに就任した。Mr. Chapman はパートタイムのコンサルタントとして同社に残る。

同社の最初の出版物は、ダブリンの Talbot Press およびシドニーの E. J. Dwyer との共同出版で、来る1月に出版される三巻本のローマ祈禱書 “The Divine Office” である。

George Philip Holdings社は、Tom Stacy Ltd. の教育関係資産を買い取って、新しい教科書関係の出版社 George Philip Alexander, Ltd. を設立した。同社のマネージング・ディレクターに任じられた Mr. Alan Alexander は、小中学校向の教科書の分野では著名な人であり、George Philip グループは、これにより学校向のあらゆる水準をカバーする

ことになった。

（The Bookseller、1973年12月15日号より）

——紀伊國屋書店提供——

## ニュース

☆ 米国 McGraw-Hill International Book Company の Export Department の General Manager, Mr. G. Stanley Kendrick 12月上旬来日

☆ 仏国 Editions Garnier Preres の Mr. Bernard Vereano 12月中旬来日。

☆ 独国 Libri の Export Manager, Mr. Martin Bäuml 12月中旬来日。

☆ 英国 Pergamon 社の Mr. Robert Maxwell 12月中旬来日。

☆ 英国 John Wright & Sons Ltd. の Sales Manager, Miss Jean U. Eales 12月中旬来日。

☆ 印度 Asia Publishing House の Mr. P. S. Jayasinghe 12月中旬来日。

☆ 印度 Academic Publishers の Mr. Bimal Dhur 12月中旬来日。

☆ 仏国 Scrépel 社の社長 M. Henri Scrépel 12月中旬来日。

☆ ビルボード・ジャパン株式会社はこの程事務所を閉鎖し、代表者 H.V. ドレナン氏はオーストラリアへ移転された。同社の広告及び購読の業務は11月1日から㈱ジャパン・アドバタイジング・コミュニケーションズ（JAC（中央区銀座7-3-13ニューギンザビル11階 〒104 Tel. 571-8748）が引きつぐこととなっている。

ビルボード社は事務所の閉鎖に伴い、本会から脱退された。

## 通関統計

外国貿易概況（大蔵省関税局編、日本関税協会発行）1973年9月号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

|         |             |        |              |
|---------|-------------|--------|--------------|
| 昭和48年9月 | \$4,815,000 | 1月以降累計 | \$49,458,000 |
| 昭和47年9月 | \$5,701,000 | 〃      | \$46,194,000 |

（註）此の統計は、C I F 価格で10万円以下の少額貨物は含まれない。

## ブリティッシュ・カウンシルの講習会 についてのお知らせ

第5回目のBCのコースBOOKSELLINGが本年7月7日から8月17日までロンドンで開催されることになっている。1965年をさいしよとする4回のコースでは、書籍販売に従事しているひとびとに英国方式の書籍販売について講義と実習がおこなわれている。今回のコースでは小売店管理についての実際的諸問題が主題とされている。募集人員は25名で会費は£330。申込みは2月1日まで。詳細な案内書は協会事務所にあるので申込めたい。

### Otto Schäfer 氏の死を悼む

Otto Schäfer さんが12月6日ミュンヘンの病院で亡くなった。77歳だった。Schäferさんの人生の大半はドイツの医学書を日本の医学界に紹介するために費されたといっても過言ではない。大正の末期から今日まで日本の医学界がドイツ医学に学んだその大部分は彼が日本に紹介した本からであったことを思うとき、日本の医学の進歩のために彼の果たした役割に改めて敬意を表したい。



昨年10月のフランクフルト国際書籍展のときも例年と同じように元気な姿を医学書院のスタンドに見せて、英文で書かれた日本の医学書が広く世界に紹介されるのを手伝っておられた。

全く惜しい人を失った。残念である。ここに謹んで哀悼の意を表する次第である。

ご参考までに未亡人の住所は

Frau Schäfer

Hartelstrasse 23 München

椿 孝雄 (医学書院常務取締役)

### 総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

丸 善 272-7211

Ackerman, L. V. - Surgical Pathology.

New 5th ed. approx. 1,200 pp., 1,300 illustrations.

(Mosby) ca ¥13,600

Blotner, J. - Faulkner: A biography. 2 vols.

(Random House, New York) ca ¥8,500

Bülbring, E., A. F. Brading, A. W. Jones and T.

Tomita (eds.) - Smooth Muscle. '70, xx, 676 pp.

(E. Arnold) ca ¥9,680

Cumulative Index to ALL AICHE Publications.

Subject & Author 1955-1972. Ready Dec. '73.

Approx. 800 p.

ca ¥27,820

Cumulative Index to SPE Journal & Polymer

Engineering and Science. Subject & Author

1945-1972. '73. Approx. 260 p.

¥9,540

Cumulative Index to APCA Journal. Subject &

Author 1951-1972. '73. 184 p.

¥9,300

Davson, H. - A Textbook of General Physiology.

2 Vols.

4th ed. '70. 1056 p; x, 656 p.

¥10,560

5th ed. '75. (Churchill-Livingstone)

Evans, G. B., H. Levin and others (eds.) - The Riverside Shakespeare.

(Houghton Mifflin, Boston)

ca ¥5,080

Ray, C. D. (ed.) - Medical Engineering. '73 about

1230 pp. (Year Book Medical Pub.)

ca ¥34,000

Sutton, D. and R. G. Grainger (eds.) - A Textbook of Radiology. New 2nd ed.

(Churchill-Livingstone)

ca ¥15,400

Webster's Atlas and Zip Code Directory

(G. & C. Merriam Co.)

ca ¥4,740

内外交易(株) (販売特約店) ☎ 400-2326

(日本総代理店 三井物産株式会社)

Michelin, France. All Road Maps.

南 江 堂 ☎ 811-7234

Year Book Medical Publishers

Year Book of Cardiovascular Medicine and Surgery, 1974

Year Book of Neurology and Neurosurgery, 1974

Year Book of Orthopedics and Traumatic Surgery, 1974

Year Book of Pediatrics, 1974

Atlas of Tumor Radiology series,

The Chest 1973

¥8,940

The Kidney 1971

¥8,000

The Head & Neck 1968

¥8,000

The Breast. 1969

¥8,000

The Bones & Joint 1971

¥8,880

- The Female Reproductive System 1971 ¥8,000  
 The Endocrines 1969 ¥8,000  
 Lower Urinary Tract  
 Gastrointestinal Tract  
 Brain & Eye  
 Hemopoietic & Lymphatic System  
 Accessory Digestive Organs  
 Vertebral Column  
 Advances in Nephrology by J. Hamburger  
     Vol. 1 ¥5,920  
     Vol. 2 ¥6,880  
     Vol. 3 in prep.  
 Normal & Abnormal Development of the  
     Kidney by E. L. Potter 1972 ¥8,000  
 Churchill Livingstone  
 Disorders of Voluntary Muscle by J. N. Walton  
     1973 2nd ed. ca. ¥8,800  
 Springer-Verlag  
 Atlas of Gross Neurosurgical Pathology  
     by K. J. Zülch 1973 ca. ¥17,920
- (株)アロー・インターナショナル・カンパニー  
 〒105 東京都港区芝公園2-4-720 ☎432-4567
- Datapro Research Corporation (米) All titles  
 「Datapro 70」 初年度購読料 ¥189,000  
     本体3巻航空便追補サービス12回  
     継続購読料 ¥130,000  
 「Datapro Reports on Minicomputers」  
     本体1巻追補4回月刊 Mini News 航空便扱  
     初年度購読料 ¥108,000  
 「Datapro 70」よりセレクトされた  
     特集リポート (別刷)  
 Data Processing Digest, Inc. (米) All titles  
 「Data Processing Digest」  
     月刊一年未索引 購読料 ¥21,840  
     航空便扱 ¥26,940  
     その他 Paperback ed.  
 「EDP マネジメントシリーズ」  
 Anaheim Publishing Co. (米) All titles

## 会員の横顔

三品書店

### 三品要次

新しい年が必ずしも  
 安易な年ではないこと  
 が感じられる時、私達  
 は長い間この道にたず  
 さわって来た先輩の言  
 葉に耳を傾け、それを  
 我々の智慧のなかに生  
 かさねばならないので  
 はなかるうか。



三品さんは明治33年のお生れというから73歳、数人の長老の中のお一人である。震災前に教文館に入社。銀座はまだガス灯の時代で、夕方になると長い竹竿を持った人が点灯して廻っていたのが印象的だったという。その頃から50年余、キリスト教書と共に生きてこられた三品さんが肌で感じることは、戦前の方が商売が厳しかったということである。戦後は大学等の数も増え、購買力もあがって、戦前より大分楽になったように思う。という大先輩の言葉を、戦後に育った我々は一度噛みしめてみなければいけないと思う。

昭和27年、教文館を退かれて後、独力で三品書店を経営。「大きくなろうとするな。外国に借金を作るな。」を信条として来られたという。協会の会員の規模は小さきまままで、経営の研究などにしても、大企業にはコンピューターも必要だろうが、小企業は小企業なりの経営の智慧がある筈、それをお互いに出しあって、少しでも人手を省き、能率をあげるようにしてゆけば、この難しい時代も何とか乗り切れるのではないか、という三品さんの言葉は、もっと難しい時代を体験してこられた方のそれであるだけに、人をしてうなづかせるものがある。

正月の朝風呂に、旦那衆が顔を揃えた頃の良き時代の銀座の話が出る。何か事変があると銀座には本屋が増え、世の中が安定するとそれが減っていったというのも面白い。これからの時代がそのどちらであるか、銀座通りを歩く方は注意されたら良いだろう。

話は前後するが、お伺いする前に電話で道順を伺った。「駅前から何番のバスに乗り、何々停留所からバス進行方向に100歩、右に曲って60歩。」という御指示の通り、歩数を数えながら歩いて、ひょいと見上げると「三品」という表札があった。四分の三世紀を生きた方の智慧のムダのなさに、つくづく敬服した次第である。

タイヤでおなじみの **ミシュラン道路地図**

※ ヨーロッパ [1:1,000,000]

- No. 986 イ ギ リ ス (アイルランドを含む)  
 987 ド イ ツ (オランダ・ベルギー・オーストリアを含む)  
 988 イ タ リ ア (コルシカ・サルディニア・シシリーを含む)  
 989 フ ラ ン ス (スイス北部を含む)  
 990 ス ペ イ ン (ポルトガルを含む) 各 1 部 500円

※ フ ラ ン ス [1:200,000]

- No. 51~86 全36面 1 面 250円  
 150 フランス・ミニマップ [1:2,500,000] 250円  
 96 パリ市郊外 [1:100,000] 500円  
 97 パリ近郊 [1:200,000] 500円  
 100 パリ市街図 [1:50,000] 250円

※ ド イ ツ [1:200,000]

- No. 202~206 全5面 1 面 300円

※ ス イ ス (イタリア北部を含む) [1:200,000]

- No. 21, 23, 24, 26 全4面 1 面 300円

※ オランダ・ベルギー [1:200,000]

- No. 1, 2, 4, 5, 6 全5面 1 面 300円

※ ア フ リ カ [1:4,000,000]

- No. 153 西 北 部  
 154 東 北 部  
 155 中央・南部及マダガスカル  
 169 モ ロ ッ コ [1:1,000,000]  
 172 アルジェリア・チュニジア [1:1,000,000]  
 175 象牙海岸 [1:750,000] 各 1 部 700円

日本総代理店  
三井物産株式会社

(特約店)

**内外交易株式会社**

☎ 150 東京都渋谷区広尾1丁目7-3-107号  
電 話 東 京 (400) 2 3 2 6 (代 表)

昭和49年1月 通巻第81号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重  
 ☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901  
 ☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329